

# 九州大学大学院総合理工学報告

## 投稿原稿作成の手引き

### 1. 投稿原稿の構成

1.1 投稿原稿は、和文原稿、欧文原稿ともに、カメラレディ原稿をもって構成する。

1.2 カメラレディ原稿は学府ホームページからダウンロードしたテンプレートの書式に従い、ヘッディング、ランニングタイトルおよび掲載決定後に通知される掲載ページなどを含め、著者が最終掲載版を作成する。

### 2. 投稿原稿の作成

#### 2.1 一般的な方針

原則的には、テンプレートの書式に従って作成する。

以下には、詳細の注意点を列挙する。

#### 2.2 本文

・ 本文の第1頁目には、論文題目、著者名、原稿受理年月日、掲載決定年月日、E-mail address を書き、著者の所属、紹介者の氏名と所属を脚注に記入する。脚注は以下の書式に従う。

(1) 全著者の名前右肩にマークを付す。

(2) 使用するマークは次のようにする。

\* 1、\*2、\*3 など

(3) E-mail address を掲載する著者には、さらに†マークを付す。

- ・ 和文原稿では、論文題目と著者名の英訳を書く。
- ・ 著者の所属が研究時と現在で異なる場合は、研究時の所属を先にする。

[例 ○○専攻修士課程 (現在○○)]

- ・ 要約は和文、欧文原稿とも英語に統一し、長さは200語以内とする。
- ・ 要約の下に英語で **Key words** を書く。
- ・ 本文はなるべく緒言、理論、実験、結果、考察、結論、謝辞、参考文献、付録の順で書く。この中で、不必要な項目は省いてよい。
- ・ 本文の区分けは、ポイントシステム記号による。

例 大見出し 1、2、3、・・・

中見出し 1.1、1.2、1.3、・・・

小見出し 1.1.1、1.1.2、1.1.3、・・・

- ・ 和文の文章は、当用漢字、現代かなづかいを用い、簡潔にわかりやすく書く。外国の地名、人名等の固有名詞は、外国語つづりで書くことが望ましい。
- ・ 和文では、新しい行の初めは1コマあける。
- ・ 文献の引用は1)、2) のように通し番号を上つきで示し、本文末に参考文献として一括する。

- ・ 数式は原則として  $\frac{a}{b}$ 、 $\frac{a+b}{c+d}$  のように書くが、文中に出てくる場合は a/b、(a+b)/(c+d) のように 1 行におさまるように表す。
- ・ 式番号はカラムの右端に、(11) のようにつける。

## 2.3 図表

- ・ 図表は説明文を含め、全て英語で表記する。
- ・ 図表には、Fig.1、Fig.2、Table 1、Table 2 のような図表番号を付す。本文中での引用は Fig.1、Table 1 などのように行う。
- ・ 英文でない欧文の図表およびその引用については、同一欧文で表現するものとする。

## 2.4 参考文献

- ・ 参考文献は、原則として下記の順序により記入するが、各学会誌の慣行に従ってもよい。

論文は、著者名、雑誌名、巻、頁(発行年)。

- 例
- 1) 甲野乙郎, 九大太郎, 日本金属学会誌, 47, 1063 (1996).
  - 2) R.Lewis and R.Gomer, Surface Sci., 17, 333 (1995).

著書は、著者名, “書名”, 出版社(出版年)頁。

- 例
- 1) 上田良二, “真空技術”, 岩波全書 (1955) p.163.
  - 2) E.A.Evans, “Tritium and Its Compounds”, Butterworth & Co., London (1996) p.122.
  - 3) C.M.Mitchel, “X-Ray Diffraction” in “Standard Methods of Chemical Analysis”, ed. by F.J.Welcher, New Jersey (1966) p.203.

- ・ 各文献の冒頭に一連番号を付す。

- 例
- 1)
  - 2)
  - ・
  - ・

## 2.5 付録

- ・ 付録がある場合は、参考文献の後に置く。
- ・ 付録の式番号は(A1)、(A2)のように A を付ける。
- ・ 表、図のキャプションも Fig.A1、Table A1 など A を付ける。
- ・ セクションをつける場合には、セクション番号にも A1.〇〇...のように A を付けること。

## 2.6 その他

- ・ 著者の所属表記法

### (1) 和文論文

(a) 総理工内

職員は部門名のみ、在學生は修士、博士の別、卒業生は現在の所属も記す。

[例1] 職員 融合創造理工学部門

[例2] 学生 物質理工学専攻修士課程

[例3] 卒業生 先端エネルギー理工学専攻博士課程

(現在 日本エネルギー研究所)

(b) 九大・他部局

職員は部局名および部門名を記す。研究所の場合は部門名まで記す。在學生、卒業生は(a)に同じ。

[例4] 職員 工学研究院エネルギー量子工学部門

[例5] 学生 工学府エネルギー量子工学専攻修士課程

[例6] 研究所職員 先導物質化学研究所融合材料部門

(c) 他機関

機関名および学部等も付す。それ以外は(b)に同じ。

[例7] 佐賀大学理工学部

(2) 欧文論文

英語表現とする以外は原則として(1)に同じ

[例1] Department of Material Science

[例2] Department of Molecular and Material Sciences,  
Graduate Student

[例3] Department of Applied Science for Electronics and  
Materials, Graduate Student ( Present Address :  
○○○Co., Ltd. )

・各部門の英語表現 (参考)

融合創造理工学部門 Department of Electrical and Material Science

物質科学部門 Department of Material Science

エネルギー理工学部門 Department of Engineering Science

エネルギー環境共生工学部門 Department of Energy and Environmental  
Engineering

流体環境理工学部門 Department of Environmental Fluid Science and Technology

・各専攻の英語表現 (参考)

量子プロセス理工学専攻 Department of Applied Science for Electronics and  
Materials

物質理工学専攻 Department of Molecular and Material Sciences

先端エネルギー理工学専攻 Department of Advanced Energy Engineering Science

環境エネルギー工学専攻 Department of Energy and Environmental Engineering  
大気海洋環境システム学専攻 Department of Earth System Science and  
Technology

- ・ 2 段組原稿の場合、最終ページのカラム高さはなるべく左右均等になるようにそろえること。
- ・ 以上の他は、それぞれ所属学会の論文投稿規則を準用する。

(平成 8 年 6 月 12 日一部改正)

(平成 13 年 10 月 1 日一部改正)

(平成 18 年 2 月 8 日一部改正)

(平成 24 年 4 月 1 日一部改正)